

2014年1月20日

会員各位

公益社団法人日本産婦人科医会
会長 木下 勝之

日本周産期・新生児医学会編『先天性風疹症候群（CRS）診療マニュアル』について

謹啓 先生方におかれましては益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

さて、一昨年来流行が続いている風疹につきましては本年、特段顕著な流行が続き、昨年一年間においては31名の先天性風疹症候群児（CRS児）が報告されております。先天性風疹症候群児（CRS児）につきましては、感染症法に基づき所轄の保健所へ医師による届出が義務付けられております。

また、CRS児の出産後は児から生後しばらくの間、風しんウイルスが検出されることが知られており医学的対応とともに患児、ならびに保護者・家族に対して十分な社会的配慮・対応が求められることとなります。

このたび日本周産期・新生児医学会から公表されました『先天性風疹症候群（CRS）診療マニュアル』につきましては、これらのCRS児を実際に診療する産科医、小児科医のために作成されたCQ形式となっております。会員各位におかれましては、先に公表されている『先天性風疹症候群に関するQ&A（国立感染症研究所）』とも併せて、適切なお対応、ご配慮のほどお願い申し上げます。

マニュアル本文の詳細につきましては、下記ウェブをご覧ください。

謹白

■先天性風疹症候群（CRS）診療マニュアル（2014年1月）

（日本周産期・新生児医学会 編）

<http://www.jspnm.com/Teigen/docs/CRSver7.pdf>

■先天性風疹症候群に関するQ&A（2013年9月）

（国立感染症研究所 感染症疫学センター、同 ウイルス第三部）

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/crsqa.html>